

令和4年度第10回 感染症発生動向調査部会

令和5年1月18日

月番：馬場 尚志（感染症全般）、大野 元（STI）

1 前月の感染症発生動向について（2022年第48週～52週・12月）

<全数把握対象疾患>

- 結核は毎週報告あり（2022年累計の対前年比89.9%）。発症者18例中、70歳以上が9例と半数を占める一方で、20歳代で3例、30歳代で2例の報告あり。
- ツツガムシ病が第48週から第50週にかけて計8例報告あり、うち1例は1歳児であった。2022年累計の対前年比は46.4%であった。
- 侵襲性肺炎球菌感染症は3例報告あり、0歳児2例を含む、いずれも4歳以下の小児であった。ワクチン接種回数は2例が3回、1例が4回であった。
- 後天性免疫不全症候群は今回（第48週から第52週）報告なし。2022年累計としては7例（対前年比50%）で、20歳から49歳までのいずれも男性で、女性は報告なし。
- 梅毒は14例報告あり（2022年累計の対前年比157.1%）。うち8例が早期顕症で（2022年累計の対前年比182.5%）、男性5例、女性3例（10歳代1例、20歳代2例）であった。

<定点把握対象疾患>

- インフルエンザは県全体で91例報告され（前年同期比1300.0%）、岐阜市は第52週に流行入りの基準である定点医療機関あたりの報告数が1を超えた（岐阜県全体としては2023年第1週に流行入り）。
- 感染性胃腸炎は560例報告されたが（前月比140.92%）、前年同期比81.8%、2019年同期比55.9%である。ロタウイルスによる感染性胃腸炎（基幹定点）は2022年には報告なし。
- 性感染症定点疾患は、いずれの疾患も前年とほぼ同様の発生状況である。

2 検討すべき課題

- 来年度の感染症法改正に伴う感染症発生動向調査への影響（見通し）

<事務局から>

- 今シーズンのインフルエンザの流行について（継続）

3 情報提供すべき事項

- 梅毒における報告数増加について
- 海外渡航・受入れ等に伴う感染症について

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- 令和4年度岐阜県予防接種研修会

日時：令和5年3月1日（水）14時～16時

場所：じゅうろくプラザ 5F 大会議室（ハイブリッド開催予定）

対象：県内予防接種行政担当者、実施担当者

・ 新たなワクチン

＜製造販売承認＞

- ・ 15 価肺炎球菌ワクチン（バクニューバンス：MSD）
- ・ 髄膜炎菌ワクチン（メンクアッドファイ：サノフィ）

＜承認申請中＞

- ・ 新型コロナウイルスワクチン
（遺伝子組み換えタンパクワクチン：塩野義、mRNA ワクチン：第一三共）

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 県内のインフルエンザの流行について
- ・ 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律」施行に伴う感染症サーベイランスシステム利用の義務化について
- ・ 鳥インフルエンザ発生状況

＜検討結果＞